

SUPPLEMENT TO GENES GENET.SYST. (2011)86(2)

April 2011

# GSJ

## コミュニケーションズ

PROCEEDINGS OF THE SOCIETY

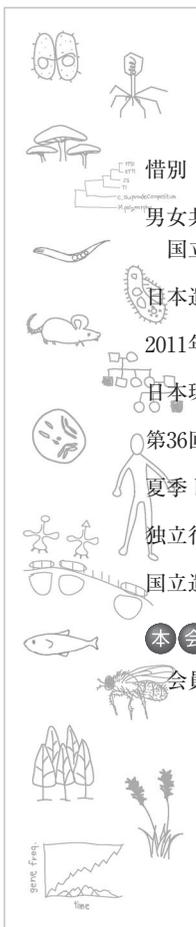


GENETICS SOCIETY OF JAPAN (GSJ)

◆創立1920年◆

日本遺伝学会

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>



## 目 次 頁

惜別：名誉会員 故 樋渡 宏一先生の思い出 高橋三保子	3
男女共同参画推進特別委員会より 国立遺伝学研究所における公開セミナー開催の報告 松浦悦子	4
日本遺伝学会第83回大会ニュース（その3）	5
2011年度第1回評議員会議事録	11
日本環境変異原学会第40回大会開催のお知らせ	12
第36回組織細胞化学講習会のご案内	13
夏季トレーニングコース 最先端の進化系統情報科学技術	13
独立行政法人理化学研究所 平成24年度基礎科学特別研究員公募	14
国立遺伝学研究所 研究教育職員募集要項	14
<b>本会記事</b>	
会員異動	15

名誉会員 故 樋渡 宏一先生の思い出

2011年3月6日、仙台市の洞林寺で故樋渡宏一先生の3回忌法要がおこなわれた。樋渡先生が旅立ってから2年が過ぎたことになる。法要には、ご親戚の他に、門下生や友人30名ほどが集まった。この日から5日後、先生が研究と教育に情熱を注いだ東北地方に、大地震と津波が襲ったのである。

樋渡先生は、1921年2月11日仙台市に生まれ、旧制の盛岡中学（現盛岡一高）と盛岡高等農林（現岩手大学農学部）を経て、戦時中の1942年に東北帝国大学（現東北大学）理学部に入学し、卒業後は大学院特別研究生として在籍、このころゾウリムシとの出会いがあったという。なぜ、ゾウリムシだったのか。葬儀の後に行われた「樋渡先生を偲ぶ集い」で話されたのは、化学毒性の評価動物に使えないか、という要請があったからだという。戦時中の大学院生だったころのことである。その後、終生、ゾウリムシを研究材料としてきた。終戦後間もない1949年に山形大学に講師として赴任し、1953年に東北大学に配置換え、理学部講師、助教授を経て1962年東北大学川内東分校教授、宮城教育大学教授、東北大学理学部教授となり、1984年63歳で定年退官した。その5年後、新設された石巻専修大学教授となり、1995年2度目の定年を迎えている。

研究室では、誰でも「ボス」と呼んでいた。痩せ型で一見神経質そうな風貌とはまるで違って、東北人らしいある種の「鈍感さ」をもっていた、と思う。科学（遺伝学）者の世界で主流ではないことを、淡々と受け入れ、しかし、批判精神は旺盛であった。群れることを嫌い、国内・国外を問わず、外との交流を楽しんでいた。遺伝学会でも、出身も分野も違う方とよく交流していたと思う。どのような場でも、反対意見であっても率直な意見をいう人ほど評価し、研究のこと、科学のこと、国民性やビールのことなど、議論することに話題を選ばず楽しんでた。この率直さは、外国に出ても変わることはなかった。友人が多いのも、その飾らない人柄の賜物であろう。自分のことを自慢するようなことを聞いた覚えがない。

樋渡先生は、日本に於ける「ゾウリムシ学」を興し

た人といわれる。主に *P. caudatum* を使って、その特色を活かした加齢現象や核の分化など多岐にわたる研究を進めてきた。しかし、興味の中心はゾウリムシの性であったと思う。動物発生学教室の出身であった先生は、ゾウリムシの接合が高等な生物の受精現象のモデルになると考えたという。遺伝学を強く意識し、「ゾウリムシの性と遺伝（東京大学出版会）」及び「性の源をさぐる（岩波書店）」の2編の著書がある。ゾウリムシを樋渡先生の多彩な研究を可能にしたのは、学生が、これは正に自分の研究テーマである、と思う程、徹底した研究の議論をしたことである、と私は思っている。それは、セミナーで行われるばかりでなく、飲み会でもスキーのときでも、いつでも可能だった。実験室側の教授室のドアはいつでも開いていた。議論の中で、ご自分で進めなかった課題を提示し、困難には一緒に真剣に向き合い、解決の方法を考え、成果を共に喜んでた。定年間近でも、実体顕微鏡で「ムシ」をつまんでいたし、学生との真っ向勝負の議論もしていた。

何事にも人との出会いは生涯の宝である。私は、偶然に研究補助という就職口があったから手を挙げて応募したのであって、結果として研究の道に進むきっかけとなった。「そんなことあるはずがない」と言われて、「それなら証明して見せよう」と思ったのが研究の面白さにはまるきっかけになってしまった。単に手足として扱うのではなく、挑戦を認める指導者にめぐり合ったことは、大変に幸せなことであったと、今思う。門下生たちは、いろいろな分野で活躍しているが、3月11日の津波被害に見舞われた石巻専修大学には、芳賀信幸氏と柳明氏がいる。二人とも無事で復興に力を尽くしている。芳賀氏は、「イマチュリン」と名付けたゾウリムシの若返り分子の解析を続けている。私を含め、弟子たちも定年を迎える者が出てくる頃になった。その年になって、改めて真似の出来ないエネルギーな方だった、と思う。

2011年3月25日

筑波大学名誉教授 高橋三保子

● ● ● 国立遺伝学研究所における公開セミナー開催の報告 ● ● ●

男女共同参画推進特別委員会では、2011年2月23日の委員会開催の機会に、大坪久子委員による特別セミナー「“Beyond the Bias and Barriers” ～優れた遺伝学者の芽を生かすには～」を国立遺伝学研究所内にも公開し、所内から13名の方々にご参加いただくことができました。

セミナーでは、大坪委員の長年にわたる男女共同参画、女性研究者支援の活動のなかから、女性研究者の現状とその分析について、豊富なデータを示されながらのお話がありました。日本の研究者に占める女性割合（13%、2009年3月31日現在）が先進国のなかで最下位に位置しているのは周知のことですが、この背景にある諸問題のなかで、特に、無意識に生じるバイアスや女性側にもあるバリアに焦点が当てられました。家事や育児の実態や仕事との関係に関する考え方に男女間で差異のあることは、男女共同参画学協会連絡会が実施した大規模アンケートからも明らかにされています。また、他学会の例になりますが、シンポジウムの発表者やオーガナイザーにおける女性比率や、学会賞受賞者と審査員の女性比率の関係（審査員に女性がいる場合の方が女性の受賞者が出やすい）には、興味深い男女間の差異が見られています。職業選択に際しても、女性と男性では意思決定のプロセスの異なることが医師や看護師の例で如実に示され、社会通念に潜む見えないバリアが、こうしたところに影響を及ぼしていることを知らされました。社会全体の意識を変えていくのは容易なことではありませんが、まずはどのような問題があるのかを明らかにし、男女で問題意識を共有していくところから始めると、お話をうかがってあらためて感じた次第です。

本学会では、学会大会の際に男女共同参画ランチョンワークショップを開催し、このような問題について考え、意見交換をする機会を設けております。また、男女共同参画学協会連絡会において、学会を含むリーダーシップ活動における機会均等の問題に取り組むワーキンググループ活動に協力して、学会参加登録時に属性調査のアンケートを実施いたします。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

（文責：男女共同参画推進担当幹事 松浦悦子）

## 日本遺伝学会第83回大会ニュース

2011年の第83回大会は、京都大学農学研究科を会場に、下記のような企画で準備を進めております。全国から多くの方々の参加をお待ちしております。

大会ホームページ (<http://www.gsj2011-kyoto.jp/>) では、最新の情報を順次掲載いたしますのでご覧ください。ランチョンセミナー、機器・試薬等展示、広告掲載、市民公開講座、託児室、会場へのアクセスについての詳細は大会ホームページに順次掲載いたしております。第83回大会では学生の参加を歓迎するため、学生会員の参加費は無料とし、演者には旅費の一部援助も行います。また、優れた発表は Best Papers 賞として表彰いたします。なお、昨年度 BP 賞の一部は学会長主催プレナリーワークショップとして講演披露されます。

1. 会場： 京都大学農学研究科総合館講義室 (〒606-8502 京都市左京区北白川追分町)  
アクセスマップ <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/access/accessmap.html>  
キャンパスマップ <http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/campus/yoshida-map.html>
2. 会期： 2011年9月20日(火)・21日(水)・22日(木)  
なお、公開市民講座を9月23日(金・祝)午後に予定しています(後述)。
3. 企画：
  - (1) 一般講演 9月20日午前・21日午前・22日午前  
講演時間は1題につき15分(発表12分、質疑応答3分)を予定しています。PC用プロジェクター機材のみを用意しますので、各自発表用PCをご持参下さい。
  - (2) シンポジウム及びワークショップ 9月20日午後・22日午後  
シンポジウム(1課題～3時間)3課題、ワークショップ(1課題～2時間)15課題を予定しています。タイトルと世話人は以下の通りです(一部、仮題を含みます)。一般会員の講演申し込みの際に、ワークショップでの発表希望を伺います。各課題の詳細な日時と内容は、大会ホームページおよび大会ニュース(その4)に掲載の予定です。  
【シンポジウム】
    - 1) 植物における生殖研究の新展開(9月20日)  
世話人：野々村賢一(国立遺伝学研究所)、那須田周平(京都大学)
    - 2) アジアの遺伝学のネットワーク構築を目指した特別シンポジウム(9月20日)  
世話人：五條堀 孝(国立遺伝学研究所)、真木 寿治(奈良先端大)
    - 3) NBRP シンポジウム「生物遺伝資源と進化・多様性研究」(9月22日)  
世話人：明石 良(宮崎大学)、小林 正智(理研 BRC)  
【ワークショップ】
    - 1) モデル生物としてのイネ研究～基礎研究から作物科学への発信～  
世話人：木下 哲(奈良先端科学技術大学院大学)、寺田 理枝(名城大学)
    - 2) 植物ゲノム研究の最近のトピック  
世話人：山本 義治(岐阜大学)、田中 剛(農業生物資源研究所)
    - 3) 生命機能におけるエピジェネティクスの重要性  
世話人：沖 昌也(福井大学)、佐瀬 英俊(国立遺伝学研究所)
    - 4) 細胞ストレスと多様なゲノム応答  
世話人：中別府雄作(九州大学)、秋山 昌広(奈良先端科学技術大学院大学)
    - 5) 転移因子と宿主の生存戦略  
世話人：伊藤 秀臣(北海道大学)、河邊 昭(京都産業大学)、一柳 健司(九州大学)

- 6) ウイルスの進化的研究の新展開  
世話人：鈴木 善幸 (名古屋市立大学), 小林 由紀 (名古屋市立大学)
  - 7) サイズに対応した合成ゲノムデザイン法の展開  
世話人：片岡 正和 (信州大学), 板谷 光泰 (慶応大学)
  - 8) ショウジョウバエの進化遺伝学  
世話人：田村浩一郎 (首都大学東京)
  - 9) 植物の機能性 RNA：花成から受精まで  
世話人：金澤 章 (北海道大学), 星野 敦 (基礎生物学研究所)
  - 10) 次世代育種に向けたゲノム研究の展開：アソシエーション解析とゲノミックセレクション  
世話人：岩田 洋佳 (東京大学), 宅見 薫雄 (神戸大学)
  - 11) マウス遺伝学が支える生命科学  
世話人：田村 勝 (国立遺伝学研究所), 佐渡 敬 (九州大学)
  - 12) 新学習指導要領の下で学校教育の遺伝分野をどう教えるか  
世話人：池内 達郎
  - 13) ゲノムの恒常性と可塑性を保障する高次複合体の制御機構  
世話人：片山 勉 (九州大学)
  - 14) TOR (Target of Rapamycin) ネットワークの構造と機能—酵母遺伝学からのアプローチ  
世話人：塩崎 一裕 (奈良先端科学技術大学院大学)
  - 15) ゲノム微生物学から遺伝学へのインパクト  
世話人：小林 一三 (東京大学), 津田 雅孝 (東北大学)
- (3) 男女共同参画ランチョンワークショップ 9月21日昼休み  
「参加登録時におけるアンケートについて」と「男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について」のお願いとお知らせがこのニュースの最後にございますのでご覧ください。

4. 総会・受賞講演： 京都大学農学研究科 大講義室 (W100)

9月21日(水) 14:00-17:30 (「プレナリーワークショップ」を含む)

5. 懇 親 会： 京都大学百周年時計台記念館国際交流ホール 9月21日(水) 18:00-20:00

6. 参 加 登 録：

(1) Web 登録

参加登録は、大会ホームページ (<http://www.gsj2011-kyoto.jp/>) の大会参加登録画面から事前参加申し込みを行ってください。

(2) 参加費の振込

事前参加でお申し込んだ後、お振込いただく際は、GGS Vol. 86 No. 2 の郵便払込取扱票の通信欄に下記の記載事項を記し、下記ゆうちょ振替口座までお振込みください。

◆通信欄記載項目

- 1) 事前参加申込の際は下記の参加費の区分 (一般・学生・一般非会員・学生非会員) と懇親会参加か否か記載をお願いいたします。
- 2) 事前参加登録完了後、お知らせさせていただきました、「参加登録番号」の記載をお願いいたします。

\* 払い込んだ方が特定できるように一人1枚ずつ別々の払込取扱票をお使いください。

\* 1枚の払込取扱票を用いて研究室単位等でまとめて支払わないようお願いします。

所定の振込用紙がない場合、郵便局に備え付けの振替用紙 (青色) で、下記郵便振替口座までお振込みください。

## &lt;送金先&gt;

ゆうちょ振替

口座番号 00900-7-226680

加入者名 日本遺伝学会第83回大会

他行等からのお振込の場合

店 名：099

預金種目：当座

口座番号：0226680

## ・大会参加費

	事前登録：6月9日(木)～8月11日(木) (8月11日迄に参加費をお払い込みください。)	当日登録
一般会員	7,000円	8,000円
学生会員	無料	無料
一般非会員	9,000円	10,000円
学生非会員	無料 (講演要旨集は当日実費販売)	無料 (講演要旨集は当日実費販売)

## ・懇親会費

	事前登録：6月9日(木)～8月11日(木) (8月11日迄に参加費をお払い込みください。)	当日登録
一般会員	6,000円	7,000円
学生会員	3,000円	4,000円
一般非会員	6,000円	7,000円
学生非会員	3,000円	4,000円

## 【注意事項】

- ・会員の方は、2011年度までの遺伝学会会費を参加登録日までにお納め下さい。
- ・現在非会員で会員料金を参加される方は、参加登録をする前に入会手続きと会費納入を行ってください (<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>)。
- ・大会及び懇親会への参加者は、参加登録を行ってください。参加章の無い方は、原則として会場への入場はできません。
- ・事前登録としての参加登録の完了には、Web参加登録及び参加費振込の両方が必要です。注) 海外からの参加者は当日受付でのお支払いとなりますので、この限りではありません。
- ・8月11日(木)以降の参加登録は、当日受付にてお願いします。
- ・8月11日(木)迄に Web 参加登録と参加費振込を済まされた方には、8月下旬に参加章と講演要旨集を郵送します。
- ・当日登録の参加者と海外から事前登録頂いた参加者には大会当日に参加章と講演要旨集をお渡ししますので、受付までお越し下さい。
- ・当日登録の学生(会員・非会員)は、学生証を提示お願いします(提示のない場合、一般非会員扱いとなります)。
- ・8月11日(木)以降に参加登録された参加者と海外から事前登録頂いた参加者には大会当日に参加章と講演要旨集をお渡ししますので、受付までお越し下さい。なお、8月11日以降に郵便振込なされた方は、振込受付控をお持ちください。

## 7. 講演申し込み：2011年6月9日(木)～7月5日(火)

シンポジウム・ワークショップ及び一般講演は、大会ホームページ (<http://www.gsj2011-kyoto.jp/>) の

参加登録画面（6月9日(木)より稼働）からお申し込みください。講演申し込みは必ず Web 上での参加登録をすませた後に行ってください。参加登録番号が必要となります。

**【注意事項】**

- ・日本語要旨と英語要旨の両方の登録をお願いします。
- ・講演の申し込みは一般講演およびシンポジウム・ワークショップを含め、1人1題を原則とします。
- ・一般講演で発表できるのは日本遺伝学会会員のみです。会員の方は2011年度までの学会費を7月5日(火)までにお納めください。
- ・非会員の方が一般講演で発表される場合は、先に入会手続きを日本遺伝学会ホームページ <<http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/nyukai.html>> からお願いします。会費納入は7月1日までをお願いします。なお、会員でなくても非会員扱いで大会には参加はできます。
- ・オンライン演題登録後、確認修正画面で登録番号とパスワードにより登録をご確認下さい。
- ・登録番号やパスワードを忘れた場合のお問い合わせには応じられません。パスワードを忘れた演題で修正が必要になった場合には、登録をやり直し、大会事務局 (iden83ku@kais.kyoto-u.ac.jp) にお知らせ下さい。講演要旨締め切りは7月5日(火)です。

**8. 学生会員の旅費援助：**

学生会員の参加奨励のため、発表する学生会員に旅費の一部を援助（交通費実費程度）いたします。ただし、所属研究室や日本学術振興会などから旅費が支給される方はご遠慮ください。

※大会全期間参加を条件とします（9月20日(火)～22日(木)）。

申請方法：申請書は1人につき以下の6点をA4一頁に記載し、下記住所まで郵送ください。

- 1) 氏名、2) 所属と学年、3) 所属住所、4) 旅費援助希望理由、5) メールアドレス、6) 指導教員のサインと押印。

締め切り：7月5日(火)必着

送付先：〒411-8540 三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会  
日本遺伝学会83回大会 旅費援助申請係  
TEL: 055-981-6736 FAX: 055-981-6736

**9. 託児施設：**

京都大学吉田キャンパス北部構内農学・生命科学研究棟 (<http://www.kais.kyoto-u.ac.jp/japanese/campus/yoshida-map.html>) 内一室を一時託児施設として利用することができます。施設利用ご希望の方は9月1日までに大会事務局 (iden83ku@kais.kyoto-u.ac.jp) にご連絡ください。託児業務は、株式会社アルファ・コーポレーション ((社)全国ベビーシッター協会 正会員) に委託して運営いたします。なお、託児施設を利用された方には、日本遺伝学会より託児費用の半額が支援されます。

**10. Best Paper 賞：**

昨年の大会と同様の要領で、大会発表の一般演題の中から優れた研究発表10件程度を選んで表彰いたします。一般講演として登録後、ワークショップの口演発表として選ばれた演題も対象になります。

**11. 公開市民講座：「遺伝学から見た生物多様性」**

キャンパスプラザ京都 (JR 京都駅前) 9月23日(金) 13:00-17:00

※入場無料

<公開市民講座の概要>

今日、地球環境と生物多様性の問題は人類共通の緊急課題である。人間活動による環境負荷は地球環境の劣化をもたらし、生態系は豊かさと精妙なバランスを失いつつある。本講座の目的は、多くの人々が遺伝学の基礎的な事項を理解する機会を提供することにある。昆虫写真家と遺伝学・生態学の研究者らによ

る講演、および討論を通じて、本来生物に備わった多様性を生み出すメカニズムや、多様性を維持するための生命機構や必要な集団サイズなど、遺伝学の基礎的な事項を分かりやすい形で提示し、遺伝学・ゲノム科学の観点から生物多様性の意味と現状、および人間活動との関わりなどについて、理解を深める機会を提供する。

講演：

- (1) 新開 孝 (昆虫写真家)  
「里山における昆虫との対話」
- (2) 仁田坂英二 (九州大学大学院理学研究院 生物科学部門, 助教)  
「鎖国がもたらした日本在来植物の園芸ブーム」
- (3) 岡田 典弘 (東京工業大学大学院生命理工学研究科 進化・統御学講座, 教授)  
「危機から生まれた哺乳類」
- (4) 加藤 真 (京都大学大学院地球環境学堂 環境生態論講座, 教授)  
「送粉共生がはぐくむ植物の多様性」

### 12. 日本遺伝学会第83回大会準備委員会：

大会委員長	遠藤 隆	京都大学農学研究科
事務局庶務・会計・懇親会	那須田周平	京都大学農学研究科
プログラム委員長	真木 寿治	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
プログラム委員	木下 哲	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
	秋山 昌広	奈良先端科学技術大学院大学バイオサイエンス研究科
	宮下 直彦	京都大学農学研究科
	岩部 直之	京都大学理学研究科
	秋山 秋梅	京都大学理学研究科
	寺地 徹	京都産業大学総合生命科学部
	河邊 昭	京都産業大学総合生命科学部
	池村 淑道	長浜バイオ大学コンピュータバイオサイエンス学科
	山本 博章	長浜バイオ大学バイオサイエンス学科
	伊藤 雅信	京都工芸繊維大学生物資源フィールド科学教育研究センター
ホームページ	都丸 雅敏	京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター
会場・案内・設備	河原 太八	京都大学農学研究科
	安井 康夫	京都大学農学研究科
公開市民講座	山本 雅敏	京都工芸繊維大学ショウジョウバエ遺伝資源センター

13. 連絡先： 日本遺伝学会83回大会事務局  
京都大学農学研究科 (〒606-8502 京都市左京区北白川追分町)  
iden83ku@kais.kyoto-u.ac.jp

## 日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会からのお願いとお知らせ

### ○参加登録時におけるアンケートについて

日本遺伝学会男女共同参画推進特別委員会

日本遺伝学会は、男女共同参画学協会連絡会に加盟し、科学技術の分野において男女共同参画を進めるための活動に参加しています。昨年度より、学会大会における発表者の属性（性別、年齢、職階）を経年的に調査

していくことになり、本学会もこの調査に協力することといたしました。これは、学会大会で発表者となる女性比率が会員全体の女性比率に対して低いのではないかという観点から出発したもので、女性研究者の学会における活動度の現状を把握しようとするものです。

今大会においても、大会に参加される皆様にアンケートをお願いいたします。大会ホームページから参加登録される際に、性別、所属、職階、年齢、発表の種類、オーガナイザーの担当について、アンケートにご回答下さるようお願いいたします。回答は任意ですので、お答えいただける範囲で結構です。各項目とも回答は選択式で、時間はかかりません。また、回答は統計的に処理されますので、個人を特定する情報として利用されることは一切ありません。

調査結果は学協会連絡会としてとりまとめるとともに、本学会のデータについては、男女共同参画ワークショップや学会ホームページ ([http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/danjyo\\_ks.html](http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/danjyo_ks.html)) などでも公表してまいります。

皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

### ○男女共同参画推進にかかわる大会参加支援について

日本遺伝学会

日頃より日本遺伝学会会員の皆様には、男女共同参画推進の活動に対するご理解、ご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

日本遺伝学会では、毎年の大会開催において大会準備委員会に保育室を設置していただくとともに、学会として保育室利用料金の半額支援を行ってまいりました。さらに、この度の第83回大会開催に際しては、男女共同参画のよりいっそうの推進を図るため、育児、介護、その他の事情で大会参加が困難な状況にある会員に対して、より多くの方が大会に参加できる環境をつくるための一助として、下記の要領で支援を行うことといたしました。

支援は1件の上限を5万円といたします。大会参加のための旅費、大会参加中の保育に関わる費用、大会参加者が不在になることによって保育や介護に必要な費用等に充てていただき、育児休暇や介護休暇中であっても応募できるものといたします。どのような状況からでも、男女を問わず、男女共同参画推進の観点から会員が大会に参加できるよう支援するものです。どうか奮ってご応募ください。

#### 記

支 援 額：1件5万円を上限とする。合計3件程度を予定。

支 援 の 対 象：第83回大会に参加を希望する日本遺伝学会員。性別、年齢、発表の有無は問わない。ただし、男女共同参画推進に該当する事情がある者。

応 募 方 法：「大会参加支援申請書」(別紙様式1\*)に必要事項を記入し、日本遺伝学会事務局 ([japgenet@lab.nig.ac.jp](mailto:japgenet@lab.nig.ac.jp))へメールで送付する。

応募の締め切り：2011年5月末日

支 援 の 決 定：日本遺伝学会幹事会において迅速に書類審査を行う。審査結果は日本遺伝学会事務局より通知する。

支 援 の 交 付：日本遺伝学会事務局において大会参加登録受付を確認後に交付する。

成 果 の 報 告：大会終了後に「大会参加成果報告書」(別紙様式2\*)を日本遺伝学会事務局へ提出する。

\* 様式1、および2は、日本遺伝学会ホームページ (<http://wwwsoc.nii.ac.jp/gsj3/index.html>)、または大会ホームページ (<http://www.gsj2011-kyoto.jp/>) から取得できます。

## 2011年度第1回評議員会議事録

日 時：2011年4月4日（月） 13時40分～15時40分

場 所：学士会館

出席者：（幹 事）五條堀 孝，真木 寿治，小林 武彦，松浦 悦子，山本 博章，遠藤 俊徳，館田 英典，  
岩崎 博史

（評議員）荒木 弘之，郷 通子，権藤 洋一，印南 秀樹，小林 一三，佐々木裕之，颯田 葉子，  
石川 隆二，深海（小林）薫，松本 幸次，倉田 のり，高野 敏行，那須田周平，村田 稔，  
大野みずき，佐渡 敬（順不同，敬称略）

1. 会長挨拶 五條堀 孝
2. 幹事，評議員自己紹介
3. 報告事項

①会長報告 五條堀 孝

日本人類遺伝学会より提案のあったジョイント・ワーキンググループ設立の参加について了解された。今後のIGF対応については、アメリカ遺伝学会の動向をみて決めることとした。また、GGG発行形態については、外資系出版社に依存せず他学会の様子を見ながらJ-STAGEを継続していく方向とする。

②国内庶務幹事報告 小林 武彦

第83回大会にて国際シンポジウムを開催するため、アジアを中心とした国際化準備委員会（メンバーは会長に一任）を立ち上げた。また、2月に実施された調査委員，選考委員の選挙結果報告がなされた。学会賞の推薦（木原賞，奨励賞）の依頼がなされた。

③渉外庶務幹事報告 岩崎 博史

今後の遺伝学談話会開催について、前年度からの引き継ぎで関東地区での開催が予定されている以外は未定なので、各地区への開催の依頼がなされた。生物科学学会連合定例会議出席の報告がなされた。

④会計幹事報告 真木 寿治

2010年度決算報告がなされた。

⑤編集幹事報告 館田 英典

編集幹事の交代，GGG発行状況，GGG Prizeの実施，編集委員の交代，J-STAGEのシステム変更についての状況報告がなされた。

⑥企画・集会幹事報告 遠藤 俊徳

プレナリーWS（前年BP賞受賞者によるWS）を83回大会でも開催することが報告された。また、第85回大会候補地についていくつか検討中であるが、候補地として名乗りをあげられる場合はご連絡をお願いいたします。

⑦将来計画幹事報告 山本 博章

法人化については引き続き他学会の動向を見ていくことが報告された。遺伝学用語集編集委員会活動報告として105の主要な語についての訳語が決定し、今後のまとめの計画についての報告がなされた。

⑧男女共同参画推進担当 松浦 悦子

男女共同参画推進特別委員会の開催（2/23）の報告がなされた。今年も女子中高生夏の学校への参加と第83回大会演題登録時のアンケート実施およびランチョンWSを開催することが報告された。また、男女共同参画の観点から上限を5万円とし、3件ほど大会参加への補助を学会より行う事が了承された（期限付き）。詳細は幹事会に一任された。

⑨広報担当，ホームページ編集 関根 靖彦

樋渡先生追悼文の原稿を高橋三保子先生がご執筆くださり，GSJ.COM86（2）に掲載予定と報告された。また，今後は英語のHPを充実して行く予定であると報告された。

⑩遺伝学普及・教育担当 池村 淑道

若手への遺伝学に関するチュートリアルに関する予備的な試みの現状の資料が提出された。

⑪第83回大会準備状況について 真木 寿治

第83回大会準備状況の報告がなされた。準備委員会やシンポジウムのオーガナイザ，座長などに積極的に女性を採用してほしいとの意見が出された。

⑫その他（東北地方太平洋沖地震の復興への学会の取り組みについて）

事務局より被災地の会員の方への電話，また知人からの情報により，被災地の全会員の方の無事が確認されたことの報告がなされた。今後，被災地の会員の方へメールを再度お送りして，どういうニーズがあるかをヒアリングすることとした。また，原発の問題については，学会として専門の先生方に一定の見解を示していただくような形で対応することとした。

以上

## 日本環境変異原学会第40回大会開催のお知らせ

日本環境変異原学会第40回大会を、本年11月21～22日に東京で開催いたします。本大会では遺伝毒性に関連する基盤的研究から実際のな問題まで、学会員が直面する幅広い問題をカバーするシンポジウムを企画し、会員相互の交流の促進を目指します。特別講演は米国 NIH の Wei Yang 博士（構造生物学）にお願いしました。ポスター発表の他に、口頭発表のセッションを設け、若手研究者を中心にした発表を予定しています。多くの皆様のご参加をお待ちしています。

会 期：平成23年11月21日(月)～22日(火)  
会 場：学術総合センター（東京都千代田区一ツ橋2-1-2）  
大 会 長：能美 健彦 国立医薬品食品衛生研究所  
大会事務局：〒158-8501 東京都世田谷区上用賀1-18-1  
国立医薬品食品衛生研究所 変異遺伝部内  
日本環境変異原学会第40回大会 事務局  
TEL：03-3700-9872 FAX：03-3700-2348  
E-MAIL: jems2011@nihs.go.jp

大会の内容：1. 一般演題発表  
2. シンポジウム  
酸化ストレスとその健康影響  
生殖細胞突然変異  
発がん遺伝毒性 (ICH S1 & S2)  
3. 特別講演 Wei Yang 博士 (米国・NIH)  
4. 学会賞等受賞講演 など  
5. その他 (総会、企業展示、懇親会など)

一般演題発表形式：

1. ポスター発表：150～200題程度
2. 口頭発表：ポスター発表から若手の演者を中心に選抜、14題を予定  
○ベストプレゼンテーション賞を選考し、大会最後に表彰

演 題 申 込 期 間：平成23年7月1日(金)～8月20日(土)

事前参加登録期間：平成23年7月1日(金)～10月15日(土)

参加費 事前登録 一般会員：10,000円、学生会員：3,000円、非会員：12,000円  
当日登録 一般会員：12,000円、学生会員：5,000円、非会員：15,000円

1日目夜に懇親会を予定しています。場所は会場隣接の「如水会館」です。

講演申し込み方法および参加登録方法の詳細は決まり次第大会ホームページに掲載いたします。

URL: <http://www.j-ems.org/meeting/jems2011.html>

JEMS ホームページ: <http://www.j-ems.org>

## 第36回組織細胞化学講習会のご案内

— 記 —

名 称：第36回組織細胞化学講習会  
テ ー マ：『見るバイオサイエンス—基礎から最先端技術まで』  
実行委員長：川上 速人（杏林大学医学部解剖学教室）  
日 程：2011年8月3日(水) 講習会1日目  
8月4日(木) 講習会2日目  
8月5日(金) 技術講習会（Wet Lab）  
会 場：三鷹市公会堂（講習会）  
〒181-8555 東京都三鷹市野崎1-1-1  
杏林大学三鷹キャンパス（技術講習会）  
〒181-8611 東京都三鷹市新川6-20-2  
問い合わせ：第36回組織細胞化学講習会実行委員会事務局  
杏林大学医学部解剖学教室（顕微解剖学）  
TEL：0422-47-5511（内線3416）  
FAX：0422-44-0866  
E-mail: info\_36kjshe@nacos.com  
URL: <http://www.kyorin-u.ac.jp/univ/user/medicine/anat2/jshc36/>



夏季トレーニングコース

### Computational Phyloinformatics 最先端の進化系統情報科学技術

アメリカ・ヨーロッパ・中国でも好評を博してきた  
基礎～応用まで10日間の徹底的なトレーニング：

- ◎ 複雑な系統解析プロトコルを自在にプログラミングしたい
- ◎ 系統樹のデータベースを利用し大規模な計算処理を行いたい
- ◎ 解析に必要なUNIX, Perl/Ruby, SQLを実践的な実習で身につけたい

2011年8月1日～11日  
京都大学 化学研究所 バイオインフォマティクスセンター  
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ丘

詳細はウェブで: [academy.nescent.org/wiki/ComPhy](http://academy.nescent.org/wiki/ComPhy)

講師：



Dr. Rutger A. Vos  
マリーキュリー研究員  
レディング大学  
[rutgervos.blogspot.com](http://rutgervos.blogspot.com)



Dr. William H. Piel  
進化情報学 副ディレクター  
イェール大学ビーボディ博物館  
[linkedin.com/pub/13/89/331](http://linkedin.com/pub/13/89/331)



Dr. Christian Zmasek  
Sanford-Burnham医学研究所 研究員  
[cmzmasek.net](http://cmzmasek.net)

ComPhy2011協力機関：



## 独立行政法人理化学研究所 平成24年度基礎科学特別研究員公募

独立行政法人理化学研究所は、当研究所において自由な発想で主体性を持って基礎研究を強力に推進する若手研究者を、平成24年度の基礎科学特別研究員として募集します。

1. 採用予定人数：35名程度
2. 受入機関：独立行政法人理化学研究所
3. 募集分野：物理学、化学、生物・医科学、工学の科学技術分野で、当研究所の研究領域に関連性を有するもの。
4. 応募資格：下記(1)～(3)の条件を全て満たす者であること。
  - (1) 研究計画に基づき、その研究を主体的に遂行する意志のある者。
  - (2) 原則として平成18年度（平成18年4月1日）以降に自然科学の博士号を取得した若手研究者（平成24年3月31日までに取得見込の者を含む）。
  - (3) 日本国の永住許可を与えられた者。または、日本国の大学院博士課程を修了（見込みを含む）し、博士号を取得（見込みを含む）の者。  
※平成18年度以前に博士号を取得した者及び研究経歴等について特に申請すべき事由がある者は、申請書の特記事項欄に記載のこと。
5. 待遇等：（平成22年度実績）
  - ①給 与－月額487,000円／月（社会保険料、税込）
  - ②通勤手当－実費（上限45,000円／月）
  - ③住宅手当－家賃の一部支給
  - ④研究費－1,000,000円／年
6. 契約期間：①平成24年4月1日から平成25年3月31日まで。  
②再契約については、当該年度の契約終了前の所要の評価により、平成27年3月31日まで可能。
7. 応募期間：平成23年3月28日（月）～平成23年5月20日（金）  
応募希望の方は、下記問い合わせ先 HP より応募方法をご確認ください。
8. 問い合わせ先：独立行政法人理化学研究所  
外務部 研究人材育成課 基礎科学特別研究員担当  
〒351-0198 埼玉県和光市広沢2番1号  
FAX：048-463-3687  
E-mail: wakate@riken.jp  
<http://www.riken.jp/r-world/research/research/basic.html>
9. その他：研究所予算の成立を前提としており、事情により変更があり得ます。

## 国立遺伝学研究所 研究教育職員募集要項

- ①所属：小林 武彦研究室（細胞遺伝研究系 細胞遺伝研究部門）  
採用条件：「分子生物学の高度な研究能力をもち、ほ乳動物細胞のリボソーム RNA 遺伝子の組換え機構についての独創的な研究を小林武彦教授と協力して推進できる意欲的な研究者」
- ②所属：川上 浩一研究室（個体遺伝研究系 初期発生研究部門）  
採用条件：「当研究所のバイオリソースを活用し、川上浩一教授と協力してゼブラフィッシュの脳神経機能研究を推進することができる、高い研究能力を持つ意欲的な研究者」

職名・募集人数：助教 各1名

雇用期間：5年（業績評価に基づき1回に限り5年の再任可能）

採用予定時期：決定後できるだけ早い時期

応募締切：2011年5月31日（火）必着

提出書類：(1) 履歴書（英文・和文各1通、年号は西暦、Eメールアドレス記入）

- (2) 学術論文、総説などの目録（複数著者の場合はあなたの貢献を簡単に説明してください。主要論文の番号に○印を付してください。）
- (3) 現在までの研究の概要と将来の方向・希望（英文A4判2～3枚）
- (4) 本人について評価できる研究者（国内・国外各2名以内）の氏名と連絡先
- (5) 略歴書（HPに書式を掲載）
- (6) 主要論文別刷

提出方法：提出書類(1)～(5)は、できるだけ電子メールでお願いします。  
詳しくは下記ホームページをご覧ください。

提出・問い合わせ先等

情報・システム研究機構国立遺伝学研究所人事委員会（人事・労務チーム）

E-mail: nigjinji@lab.nig.ac.jp

郵送：〒411-8540 静岡県三島市谷田1111番地

電話：055（981）6716（直通） Fax：055（981）6734

ホームページ：<http://www.nig.ac.jp/>



### ◆ 会 員 異 動 ◆

#### 新入会・再入会

三浦千明	113-0033	東京都文京区本郷7-3-1 東京大学大学院理学系研究科生物科学専攻
石井浩二郎	565-0871	大阪府吹田市山田丘1-3 大阪大学生命機能研究科
福村龍太郎	305-0074	茨城県つくば市高野台3-1-1 理化学研究所 BRC
寺田理枝	468-8502	名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学・農学部・生物資源学科

#### 退 会

和田 洋，相良嘉彦，高橋ちぐさ，鈴木大資，石川一輝，水野仁子，植松哲生，谷 明憲，間瀬啓介，菊野雄二，村田聡樹，三浦明日香，小山田智哉，武田深幸，横田悦子，安藤恵子，大矢行夫，長久保麻子，釣本敏樹，芦田泰三，古田智敬，武田 悠，佐藤康成，朝倉英則，船山純子

#### 寄贈図書・交換図書

科学	Vol. 81	No. 3, 4, 5	(2011)
ACTA SOCIETATIS BOTANICORUM POLONIAE	Vol. 79	No. 4	(2010)
Journal of Applied Genetics	Vol. 51	No. 4	(2010)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 24	No. 6	(2010)
JOURNAL OF CHINA-JAPAN FRIENDSHIP HOSPITAL	Vol. 25	No. 1	(2011)
THE YEAR BOOK			(2011)
Chinese Journal of nature	Vol. 32	No. 5, 6	(2010)
JOURNAL OF SHANGHAI UNIVERSITY	Vol. 14	No. 5, 6	(2010)

(鈴木真有美)



# 日本遺伝学会会則

- 第1条 本会は日本遺伝学会と称する。
- 第2条 本会は遺伝に関する研究を奨め、その知識の普及を計ることを目的とする。
- 第3条 本会は事務所を静岡県三島市谷田、国立遺伝学研究所内におく。
- 第4条 本会に入会しようとするものは住所、氏名および職業を明記して本会事務所に申し込むこと。
- 第5条 本会会員は普通会員、機関会員、賛助会員および名誉会員とする。毎年普通会員は会費10,000円（ただし在学証明書またはそれに代わるものを提出したとき、あるいは定年退職して常勤職でなくなったことを申し出たときは6,000円）を、機関会員は15,000円を、賛助会員は1口（20,000円）以上を前納すること。会員で会費滞納1年におよぶものは資格を失うものとする。
- 第6条 本会は次の者を総会の決議により名誉会員にすることができる。  
本会に功労のあった者、外国の卓越した遺伝学者。
- 第7条 本会は隔月1回遺伝学雑誌を発行して会員に配布する。
- 第8条 本会は毎年1回大会を開く。大会は総会と講演会とに分け、総会では会務の報告、規則の改正、役員選挙および他の議事を行い講演会では普通会員および名誉会員の研究発表をする。  
大会に関する世話は大会委員若干名によって行い、大会委員長は会長が委嘱する。大会は臨時に開くことがある。
- 第9条 本会は各地に談話会をおくことができる。
- 第10条 本会は会長1名、幹事若干名、会計監査2名の役員、および評議員若干名をおく。  
1) 会長は本会を代表し、会務を統轄する。  
2) 会長は、評議員が全普通会員の中から選出した複数の候補者から普通会員による直接選挙によって選出される。  
3) 評議員は、普通会員による直接選挙で選出される。  
4) 幹事は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
5) 会計監査は、会長が推薦する候補会員を評議員の過半数が承認することにより選任される。  
6) 会長は評議員会を招集し、その議長を務める。幹事は評議員会に出席するものとする。  
7) 評議員会は会員を代表して、事業計画、経費の収支、予算・決算、学会誌の発行、大会の開催、その他重要事項について審議し、出席評議員の過半数をもって議決する。  
8) 会長ならびに幹事により幹事会を構成し、会長がこれを代表する。  
9) 幹事会は、学会の関連事項を論議し評議員会に諮ると共に、会務を執行する。  
10) 会計監査は、学会の会計を監査する。
- 第11条 役員および評議員の任期は2カ年とする。会長および評議員は連続三選はできない。
- 第12条 本会の事務年度は暦年による。
- 付則 平成7年10月13日に第5条を改正し、平成8年1月1日から施行する。
- 付則 平成21年9月17日に第5条を改正し、平成22年1月1日から施行する。

<p><b>Genes &amp; Genetic Systems</b> 第86巻2号（付録） 2011年6月2日発行 非売品 発行者 五條堀 孝 印刷所 レタープレス株式会社 Letterpress Co., Ltd. Japan 〒739-1752 広島市安佐北区上深川町809-5番地 電話 082 (844) 7500 FAX 082 (844) 7800</p> <hr/> <p>発行所 日本遺伝学会 Genetics Society of Japan 静岡県三島市谷田1111 国立遺伝学研究所内</p>	<p>学会事務取扱 〒411-8540 静岡県三島市谷田・国立遺伝学研究所内 日本遺伝学会 <a href="http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html">http://www.soc.nii.ac.jp/gsj3/index.html</a> (電話・FAX 055-981-6736 振替口座・00110-7-183404 加入者名・日本遺伝学会)</p> <p>国内庶務、渉外庶務、会計、企画・集会、将来計画、編集などに関する事務上のお問い合わせは、各担当幹事あてご連絡下さい。 乱丁、落丁はお取替えます。</p>
--	---